

# 時の内部構造と境界 ——「このごろ」「最近」の類義関係——

佐藤琢三（学習院女子大学）

## 1. はじめに

### ■ 「このごろ」と「最近」の類義性：

比較的近いと認識される過去から発話時に至る時間の幅

- (1) {ok このごろ / ok 最近}、肩が凝って困っている。
- (2) 「<sup>つら</sup>辛み」ということばが一時期、SNS 上ではやったけど、{ok このごろ / ok 最近}はそれほど耳にしない。
- (3) {ok このごろ / ok 最近}の暑さは、もはや尋常ではない。

- ・「このごろ」「最近」の対立的類義関係
- ・意味的特徴と文法的ふるまいの関係（連体修飾、主題、焦点）
- ・2つの対立的意味機能（内部構造 vs 境界）の普遍性、認知的な背景

## 2. 基本的な意味特徴

### 2.1 一回性の事態の叙述可能性

#### ■ 「このごろ」：(比喩的に言うと)「金太郎飴」のイメージ

時間幅がその内部構造の全体を通し、ある特徴を有している

⇒ 「このごろ」：○状態の叙述 複数回の事態の発生 ×一回性の事態  
「最近」：制約なし（境界を示すのみ）

- (4) a {\*このごろ / ok 最近}、太郎は恋人にふられた。  
b {ok このごろ / ok 最近}、太郎はよく女性にふられている。  
c {ok このごろ / ok 最近}、太郎は何かと女性にもてる。
- (5) a イタリアのプーリアで、{\*このごろ / ok 最近}、G7 サミットが開かれた。  
b {ok このごろ / ok 最近}、ニュースでよくサミットのことが報じられている。  
c {ok このごろ / ok 最近}、G7 サミットは低調だ。
- (6) a {\*このごろ / ok 最近}、このあたりで強盗事件が発生した。  
b {ok このごろ / ok 最近}、次々に物騒な事件が起こっている。  
c {ok このごろ / ok 最近}、犯罪の取り締まりが厳しい。
- (7) a それは{\*このごろ / ok 最近}の出来事だ。  
b それは{ok このごろ / ok 最近}の傾向だ。

## 2.2 叙述内容と話者の日常経験

### ■叙述内容の特徴

「このごろ」：話者の経験の及ぶ範囲 日常の出来事、雑感など

「最近」： 特段の制約なし

- (8) {??このごろ / ok 最近}、我々の目に見えない地中の奥深くで、大陸側と海洋側のプレートが激しくきしみ合っている。
- (9) a 江戸時代半ばまでの庶民は一日二食が普通だった。庶民の歴史全体から見れば、一日三食なんて{??このごろ / ok 最近}の傾向だ。  
b 赤ん坊に男女の区別のない名前をつけるのは、{ok このごろ / ok 最近}の傾向だ。
- (10) a {??このごろ / ok 最近}、オゾンホールが急速に拡大している。  
b (毎日、観測を続けている研究員の発話)  
{ok このごろ / ok 最近}、オゾンホールがずいぶん大きくなってきているな。
- (11) 担当者1人でキリキリ舞っている姿に、わたしは申し訳なさと、この先の日本はどうなるんだろうという不安を強く持ちました。このごろは飲食店も同じで、働き手が急速に減っていると肌で実感しています。(2023年12月22日)
- (12) ホームレスが販売することで彼らを支援する雑誌「ビッグイシュー」の販売員さんを、このごろ立川駅前で見かけなくなっていた。(2023年11月24日)
- (13) マスクをしないで過ごすことが増えたこのごろ。毎日フルメイクをするようになり、新しいコスメを買いに出かけた。(2023年10月31日)

## 2.3 時間軸上の位置指定の可能性

### ■「最近」：時の境界 ⇔ 「このごろ」：境界表示機能希薄

「最近」： 発話時からの境界の遠近の程度や比較の表現可能

「このごろ」：時間軸上の精緻な位置づけを行わない

- (14) {ok このごろ / ok 最近 / \*かなりこのごろ / ok かなり最近}、このあたりでもゲリラ豪雨にみまわれるようになってきた。
- (15) 専門家が指摘しているのは、{ok このごろ / ok 最近 / \*もっとこのごろ / ok もっと最近}の円高傾向についてだ。
- (16) {?このごろ / ok 最近}まで、夏でもこれほど暑くはなかった。
- (17) {つい / さらに / より / もっと / かなり / ずいぶん} {\*このごろ / ok 最近}
- (18) もう一カ月前のことになるので、もしかしたら前の飼い主も諦(あきら)めていたかもしれないと思ったのだが、貼り紙はそんなに古い感じではなく、かなり最近貼り替えられたようだった。(1998年10月12日)
- (19) そう思った大野芳さんは「随分昔の話ですね」と残念な気持ちを口にした。すると藤田さんは「もっと最近見た人がいる」と言い、伊藤巳之助さん(当時75)の家に連れて行ってくれた。(2016年01月09日)
- (20) 桜島は大隈半島と陸続きなのになぜ「島」なのかというと、一九一四年に噴火したせいで陸続きになる前は島だったからだそうなのだが、スケールがでかすぎるし最近すぎる。(2017年09月04日)

### 3. 文法的振る舞い

#### 3.1 連体修飾を受ける割合

##### ■傾向とその理由

##### ・「このごろ」

高い頻度で連体修飾節構造の主名詞に 非制限的修飾節の補足説明

← 時間幅の内部構造を述べる 「どんな時間幅か？」が問題になる

##### ・「最近」

連体修飾節構造の主名詞になる例は少ない(ただし、矛盾するわけではない)

← 時間幅の内部構造が問題にならず、特段の結びつきはない

☆ 2023年12月31日現在 「このごろ」「最近」それぞれ最新300例\*

(朝日新聞クロスリサーチ)

		総数	連体修飾節主名詞
このごろ	このごろ(単独)	249	65(26.1%)
	今日このごろ	51	50(98.0%)
	計	300	115(38.3%)
最近		300	0(0%)

表1：連体修飾節を受ける割合

##### ・「このごろ」に対する補足説明(非制限的連体修飾節)の実例：

発話時を含む時間幅における、話者の経験、観察や、それに基づく日常の雑感

- (21) 「さあ挑戦しよう」と言われても、保身を考え、二の足を踏む今日このごろ。(2023年12月27日)
- (22) 夫は89歳。できることなら90歳の大台まで、悲しみ、苦しみ、つらさも喜びに変えてお互いにがんばりたいと思うこのごろである。(2023年12月27日)
- (23) オートマ車が大勢を占めるこのごろ、表さんはマニュアル車。(2023年12月24日)
- (24) そんな小さな幸せを感じながら、日々を過ごしていこうと思う今日このごろだ。(2023年05月19日)

##### ・「最近」の実例(上記検索対象範囲外)： 特段の結びつきはないものの矛盾もしない

- (25) 最後に、コロナ禍だからこそこのこんなコメントも。「コロナが流行している最近は家にこもりきりで、人間関係も自然とリセットされている。コロナが収束して、人間関係の煩わしさを早く体験してみたい」(2022年03月12日)

\*1「このごろ」については、平仮名表記のものを検索対象とした。「この頃」の場合、性質の異なる「このごろ」と「このころ」の両方に対応するため。

## 3.2 述語名詞としての機能

### 3.2.1 全体の傾向

■ 実例の分布： 2023年12月31日現在 最新300例（朝日新聞クロスリサーチ）

「このごろだ。」 OR 「このごろである。」 OR 「このごろです。」 300件 連体修飾節のみ  
 「最近だ。」 OR 「最近である。」 OR 「最近です。」 300件 分裂文優勢

		総数	分裂文焦点位置	連体修飾節主名詞(非分裂文)	その他(単独)
このごろ	このごろ(単独)	181	0(0%)	181(100%)	0(0%)
	今日このごろ	119	0(0%)	119(100%)	0(0%)
	計	300	0(0%)	300(100%)	0(0%)
最近		300	269(89.7%)	11(3.7%)	20(6.7%)

表2：名詞述語文としての機能

### 3.2.2 「このごろ」の名詞述語文

■ 「このごろ」を述語とする名詞文

- ・ 述語名詞を主題とする<主題－解説>構造 (26a)
- ・ 主題部< Xハ>が文中に現れない (26c)  
 cf. 益岡(1995a)：情報付加型非限定的連体修飾節表現の<主題－解説>構造<sup>\*2</sup>
- ・ (事態の時間軸上の位置(範囲)を特定するのではなく) 前提的情報として時を提示
- ・ 言語化されないが、<連体修飾構造全体(含主名詞)の主題>＝先行する文脈全体

(26)a 親のありがたさをしみじみと感じるこのごろだ。

コメント 主題

b このごろは親のありがたみをしみじみと感じる。

c \*それは、親のありがたさをしみじみ感じるこのごろだ。

■ 「このごろ」を述語とする名詞文の実例と主名詞の主題性

(27) 私には娘はいないが、こんな風に思いやってくれるめいがいるという幸せを、つくづく思い知らされたこのごろだ。(2023年06月23日)

(27)' このごろは、こんな風に思いやってくれるめいがいるという幸せを、つくづく思い知らされた。

\*2 益岡(1995a)は、連体節を主名詞の指示対象を限定する「限定的連体節」と限定しない「非限定的連体節」に二分したうえで、さらに後者を意味内容からすると述定として機能している「述定的装定」のタイプと、「情報付加」のタイプに分類し、情報付加のタイプの連体節において、主名詞を主題とする<主題－解説>構造が成り立っていることを指摘している。また、三上(1953)は主題をもつものの「は」が現れない「陰題」の文を指摘している。

- (28) このドラマをきっかけに、昔買った分厚い手話辞典を引っ張り出して、勉強している このごろです。(2023年03月05日)
- (28)' このごろは、昔買った分厚い手話辞典を引っ張り出して、勉強している。

■テキストの中の機能：「このごろ」が前の文脈を受け前提情報として提示

- (27)'' 今年の母の日。今度はかわいいオシャレなバッグが届いた。またびっくりして電話で聞くと、「私にとっては『母の日』と『おばさんの日』だから」と言う。小さいころからずっと「おばさん」にかわいがってもらったからだろう。めいは、私の母がまだ存命のころ、たびたび大阪の実家に姉に連れられて遊びに来ていた。時には家族で集まり旅行に行ったこともある。私には娘はいないが、こんな風に思いやってくれるめいがいるという幸せを、つくづく思い知らされた このごろだ。(2023年06月23日)

※新聞の写真説明等に同じ構造の連体修飾構造がみられる。

- (29) 【写真説明】ウクライナ中部のドニプロで29日、ロシアの攻撃で破壊されたショッピングセンター。ウクライナ非常事態庁提供=ロイター(2023年12月31日)

※少数例：文末述語名詞の「最近」が連体修飾節を受けている例

- (30) 「認めれば帰してやる」。誤認逮捕時にそうささやかれた際、私ならどうするか。家族の顔を思い浮かべてはそんなことを考え、「手の位置」に気を使いながら電車に揺られる最近である。(2007年02月19日)

### 3.2.3 分裂文と焦点化可能性

■「最近」を述語とする名詞文：多くが分裂文の焦点

「最近」： 時の境界を示し、焦点として機能しうる

← 時の特定：述語が表す動きや状態の時間軸上の位置を示す

「このごろ」：分裂文の焦点になることができない

← 時間幅の内部構造に関心。前提的情報として時を提示

時の設定：事態の叙述に必要な前提的(予備的)情報を提示

(cf. 益岡(1995b)「時の特定」「時の設定」)\*3

- (31)a {ok このごろ / ok 最近}、肩がこってつらい。  
b 肩がこってつらいのは、{\*このごろ / ok 最近} だ。

\*3 益岡(1995b)は、「～ときに」「～あいだに」等の格助詞を伴う時間節は、時間節の焦点化解釈が可能であり、文の格成分として述語の事態の時を特定する働きをし、他方、「～とき」「～あいだ」等の格助詞を伴わない時間節は、時間節の焦点化解釈が不可能であり、文の状況成分として事態の叙述の前提となる時を設定する働きをすると主張している。本研究の観察と照らし合わせると、格助詞を伴う時間節と伴わない時間節の関係は、「最近」と「このごろ」の関係と並行的である。

- (32)a {ok このごろ / ok 最近}、太郎と花子が仲良くしている。  
 b 太郎と花子が仲良くしているのは、{\*このごろ / ok 最近}だ。  
 (33)a {ok このごろ / ok 最近}、このあたりでよく不審者が出没している。  
 b このあたりでよく不審者が出没しているのは、{\*このごろ / ok 最近}だ。

■「最近」を述語とする名詞文の実例：分裂文焦点

- (34) 「パソコンサポート詐欺」と呼ばれるものだと知ったのは最近だ。(2023年06月08日)  
 (34)' 最近、「パソコンサポート詐欺」と呼ばれるものだと知った。  
 (35) グローバルヘルスという用語が使われ始めたのは最近です。(2023年04月17日)  
 (35)' 最近、グローバルヘルスという用語が使われ始めました。  
 (36) (そんなウミウシを「越前ガニに続く観光の目玉に」と、)越前町観光連盟の理事も務める三田村さんが行動を始めたのは最近だ。(2022年11月04日)  
 (36)' 最近、越前町観光連盟の理事も務める三田村さんが行動を始めた。

4. 他の現象との関連

■空間、時間等の領域における「全称量化」「存在量化」：定延(2013)(2024)

- ・全称量化：「全要素がそうである」
- ・存在量化：「全要素がそうでない、というわけではない」  
 「少なくとも一部の要素はそうである」 (定延 2024 : 37)

- (37)a この海域じゅうに財宝が埋まっている。 <全称量化> 【空間】  
 b この海域ちゅうに財宝が埋まっている。 <存在量化> 【空間】  
 (38)a 8時まで家事をした。 <全称量化> 【時間】  
 b 8時までに家事をした。 <存在量化> 【時間】  
 (39)a このごろ、このあたりで痴漢がよくでる。 <全称量化> 【時間】  
 b 最近、このあたりで痴漢がでた。 <存在量化> 【時間】

■認知操作

- ・集合的イメージング：或る限定された領域を、より小さな領域の集まりでできていると捉える(定延 2013 : 341)  
 全称量化：集合的イメージング関与(定延 2013)  
 スキャニング表現(定延 2024)  
 存在量化：(集合的イメージングは関与せず)1つの領域としてイメージされる(定延 2013)
- ・「このごろ」(全称量化)におけるスキャニング  
 → 話者の経験の範囲のことがらのみ  
 時間幅はそのスキャニングの結果としてできる

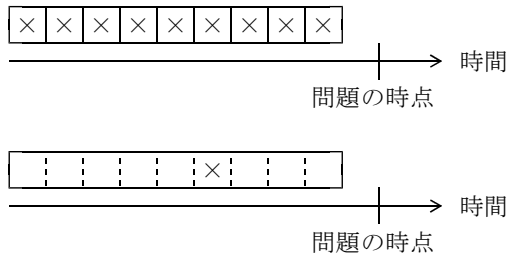


図1 時間の全称量化(上)と存在量化(下) (定延 2024:40 図2)

- (8) {??このごろ / ok 最近}、我々の目に見えない地中の奥深くで、大陸側と海洋側のプレートが激しくきしみ合っている。
- (9) a 江戸時代半ばまでの庶民は一日二食が普通だった。庶民の歴史全体から見れば、一日三食なんて{??このごろ / ok 最近}の傾向だ。  
 b 赤ん坊に男女の区別のない名前をつけるのは、{ok このごろ / ok 最近}の傾向だ。
- (10) a {??このごろ / ok 最近}、オゾンホールが急速に拡大している。  
 b (毎日、観測を続けている研究員の発話)  
 {ok このごろ / ok 最近}、オゾンホールがずいぶん大きくなってきているな。

## 5. おわりに

### 5.1 まとめ

#### (40) 「このごろ」の意味と文法

##### 意味的特徴

- a 内部構造のあり方として、その全体を通してある特徴を有する時間幅
- b 時間幅の境界に特段の関心なし
- c 叙述される内容は、話者の経験(スキヤニングに由来)
- d 共有された前提的情報
- e 時の設定：事態の叙述に必要な前提的(予備的)情報を提示

##### 文法的特徴

- f 連体修飾を受ける割合が有意に高い(時間幅の内部構造が問題)
- g 連体修飾構造主要部において主題して機能(前提的情報)
- h 分裂文の焦点として機能しない(内部構造に関心 前提的情報)

#### (41) 「最近」の意味と文法

##### 意味的特徴

- a 時間幅を他の時間と区別する境界に基づき示す
- b 内部構造が問題とならない時間幅
- c 叙述される内容に制約がない
- d 時の特定：述語が表す動きや状態の時間軸上の位置を示す

##### 文法的特徴

- e 分裂文の焦点位置で機能する

## 5.2 今後に向けて

### ■状況成分／格成分らしさの度合い

- (42) a むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいました。  
b このごろ、人のあたたかさをしみじみと感じます。  
c 最近、つらいことが多いです。  
d 12月14日に大会が開かれました。
- 状況成分(時の設定)  
↑  
↓  
格成分(時の特定)

※「昨日」「明日」「来年」等：「に」を伴わないダイクティックな時の名詞

「最近」と同じ振る舞い

- (43) a 肩が凝って困っていたのは {\*このごろ / ok 最近 / ok 昨日 / ok 先週} です。  
b 肩が凝って困っていた {ok このごろ / ?最近 / ?昨日 / ?先週} です。

### ■その他の関連形式

・「ここ最近」：境界を示し、かつ、内部構造も問題にする

(44) 若手選手が台頭してきたのは {\*このごろ / ok 最近 / ok ここ最近} だ。

(45) {\*このごろ / ok 最近 / \*ここ最近}、このあたりで事故があった。

・「ころ（頃）」の連濁：分裂文焦点位置で機能しなくなる

(46) 親のありがたみを感じているのは {\*このごろ / \*近ごろ / \*今ごろ / ok このころ / ok あのころ / ok そのころ / ok 最近} です。

### 参考文献

定延利之(2013)「量化の意味への言語的手がかり」 木村英樹教授還暦記念論叢刊行会編

『木村英樹教授還暦記念中国語文法論叢』 白帝社

定延利之(2024)『やわらかい文法』 教養検定会議

寺村秀夫(1983)「時間的限定の意味と文法機能」 渡辺実編『副用語の研究』 明治書院  
pp.233-266

益岡隆志(1995a)「連体節の表現と主名詞の主題性」 益岡隆志・野田尚史・沼田善子編  
『日本語の主題と取り立て』 pp.139-153 くろしお出版

益岡隆志(1995b)「時の特定、時の設定」 仁田義男編『複文の研究(上)』 pp.149-166  
くろしお出版

三上章(1953)『現代語法序説』 くろしお出版

用例出典 朝日新聞クロスリサーチ